

事業の実施内容及び成果に関する報告書

1. 事業名 サイクルスポーツクラブの運営

2. 事業の実施経過

(1) 事務手続き関係

平成 29 年 2 月 28 日 申請書提出

平成 29 年 3 月 31 日 決定通知書受理

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日の間

合計 64 回 次の内訳のとおりクラブの練習を実施

(トラック昼間 35 回、トラック夜間 12 回、ロード 17 回)

平成 30 年 3 月 31 日 事業完了報告書提出

(2) 事務関係

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日の間

延 44 名に指導員謝金として支払いを実施

平成 29 年 8 月 22 日 通信ストップウォッチを購入

平成 29 年 9 月 12 日 心拍計を購入

平成 29 年 12 月 19 日 計測チップを購入

平成 30 年 1 月 16 日 消耗部品を購入

平成 30 年 3 月 1 日 テープスイッチを購入

3. 事業実施内容及び成果

(1) 実施内容

自転車の競技者及び愛好者の増員による底辺の拡大を狙うことで、業界のピラミッドを大きくし、競技の普及を図ることが目的である当該事業において、本センターが運営するサイクルスポーツクラブをより多くの人々に門戸を広げてその目的を果たす。自転車競技は、未だ社会的認知度が高いとは言えず、実際競技をやってみたいと思っても、どこへ行って誰に教われればよいかめいはいくではない分からない現状がある。そこで、サイクルスポーツクラブは、手ごろな会費により、競技用自転車を所有しない者には、本センターの自転車をレンタルしてより参加しやすい環境をつくりあげた。サイクルスポーツクラブは、昼間のトラック練習(原則土曜日の9:00～12:00)を主に北400

メートルピストで月3回、そのうち2回の午後は、5キロサーキット等にてロード練習、また昼間参加することが困難な会員向けに水曜日の夜間（18：30～21：00）に、2020東京オリンピック・パラリンピック・トラック競技会場である伊豆ベロドロームにおいて、毎月1回練習日を設けた。冬期の走路凍結により走行不可能な1～2月にかけての昼間のトラックの練習については、伊豆ベロドロームで練習ができるように調整を図った。その結果、延べ1,245名（トラック1087名、ロード158名）の会員（表1参照）が、自転車競技を楽しみながら練習ができたと思慮される。指導には、本センターの職員で日本体育協会公認のコーチ資格保有者及び地元の日本競輪選手会静岡支部沼津地区の競輪選手の全面的な協力を仰ぎ、安全かつ個々のレベル、年齢、性別等にあったトレーニングプログラムを会員に対して提供することができた。

また、練習のみでは最初は楽しいものの、そのうちさらに上を目指したくなるという願望が生じることが予想されるため、初心者から中上級者までだれでも参加可能な、「敷居」の低い本センター主催の記録会及び大会を開催し、会員が参加しやすいようエントリーフィに関しても当該クラブ会員割引を設定して、参加を促した。結果は、次の「(2) 成果」にて述べることとする。

本年度最終練習日であった3月24日（土）には北400メートルピストにおいて、本センター所有の電気計時システムを用いて、1/1000秒まで計測するクラブ内の記録会を実施し、本年度を締めくくった。（記録は表2を参照）

（表1）  
トラック

月	第1回	第2回	第3回	第4回		月合計
4月	・練習日 8日(土) ・会員数 24名 ・指導者 2名	・練習日 12日(水) ・会員数 14名 ・指導者 2名	・練習日 15日(土) ・会員数 36名 ・指導者 3名	・練習日 22日(土) ・会員数 41名 ・指導者 3名	12日 Velodrome	115
5月	・練習日 10日(水) ・会員数 8名 ・指導者 2名	・練習日 13日(土) ・会員数 15名 ・指導者 2名	・練習日 20日(土) ・会員数 12名 ・指導者 2名	・練習日 28日(日) ・会員数 27名 ・指導者 3名	10日 Velodrome	62
6月	・練習日 3日(土) ・会員数 31名 ・指導者 3名	・練習日 14日(水) ・会員数 15名 ・指導者 2名	・練習日 17日(土) ・会員数 31名 ・指導者 2名	・練習日 24日(土) ・会員数 32名 ・指導者 3名	14日 Velodrome	109

7月	・練習日 8日(土) ・会員数 39名 ・指導者 2名	・練習日 12日(水) ・会員数 22名 ・指導者 2名	・練習日 15日(土) ・会員数 19名 ・指導者 3名	・練習日 29日(土) ・会員数 25名 ・指導者 3名	12日 Velodrome	105
8月	・練習日 5日(土) ・会員数 27名 ・指導者 2名	・練習日 9日(水) ・会員数 24名 ・指導者 2名	・練習日 12日(土) ・会員数 19名 ・指導者 3名	・練習日 26日(土) ・会員数 38名 ・指導者 2名	9日 Velodrome	108
9月	・練習日 2日(土) ・会員数 20名 ・指導者 3名	・練習日 13日(水) ・会員数 17名 ・指導者 2名	・練習日 16日(土) ・会員数 15名 ・指導者 3名	・練習日 23日(土) ・会員数 34名 ・指導者 2名	13日、16日、23日 Velodrome	86
10月	・練習日 7日(土) ・会員数 21名 ・指導者 2名	・練習日 11日(水) ・会員数 17名 ・指導者 2名	・練習日 21日(土) ・会員数 15名 ・指導者 1名	・練習日 28日(土) ・会員数 6名 ・指導者 2名	11日 Velodrome	59
11月	・練習日 4日(土) ・会員数 26名 ・指導者 3名	・練習日 8日(水) ・会員数 15名 ・指導者 2名	・練習日 18日(土) ・会員数 10名 ・指導者 1名	・練習日 25日(土) ・会員数 43名 ・指導者 3名	18日 ウェイト場 8日 Velodrome	94
12月	・練習日 9日(土) ・会員数 25名 ・指導者 2名	・練習日 13日(水) ・会員数 12名 ・指導者 2名	・練習日 16日(土) ・会員数 20名 ・指導者 2名	・練習日 30日(土) ・会員数 22名 ・指導者 2名	13日 Velodrome 16日 Velodrome 30日 Velodrome	79
1月	・練習日 10日(水) ・会員数 11名 ・指導者 2名	・練習日 13日(土) ・会員数 29名 ・指導者 3名	・練習日 20日(土) ・会員数 29名 ・指導者 3名	・練習日 27日(土) ・会員数 20名 ・指導者 3名	全て Velodrome	89
2月	・練習日 3日(土) ・会員数 28名 ・指導者 3名	・練習日 14日(水) ・会員数 13名 ・指導者 2名	・練習日 17日(土) ・会員数 31名 ・指導者 2名	・練習日 日( ) ・会員数 名 ・指導者 名	全て Velodrome	72
3月	・練習日 3日(土) ・会員数 31名 ・指導者 2名	・練習日 14日(水) ・会員数 16名 ・指導者 1名	・練習日 17日(土) ・会員数 35名 ・指導者 2名	・練習日 24日(土) ・会員数 27名 ・指導者 4名	14日 Velodrome	109

会員参加延人数

1087名

□ー卜

月	第1回	第2回		月合計
4月	・練習日 15日(土) ・会員数 11名 ・指導者 1名	・練習日 22日(土) ・会員数 12名 ・指導者 1名		23
5月	・練習日 13日(土) ・会員数 名 ・指導者 名	・練習日 20日(土) ・会員数 13名 ・指導者 1名	5/13 雨天中止	13
6月	・練習日 3日(土) ・会員数 12名 ・指導者 1名	・練習日 17日(土) ・会員数 14名 ・指導者 1名		26
7月	・練習日 8日(土) ・会員数 7名 ・指導者 1名	・練習日 15日(土) ・会員数 14名 ・指導者 1名		21
8月	・練習日 5日(土) ・会員数 14名 ・指導者 1名	・練習日 26日(土) ・会員数 6名 ・指導者 1名		20
9月	・練習日 2日(土) ・会員数 6名 ・指導者 1名	・練習日 16日(土) ・会員数 名 ・指導者 名	16日(土)雨天中止	6
10月	・練習日 7日(土) ・会員数 名 ・指導者 名	・練習日 28日(土) ・会員数 名 ・指導者 名	7日(土)雨天中止 28日(土)雨天中止	0
11月	・練習日 18日(土) ・会員数 名 ・指導者 1名	・練習日 25日(土) ・会員数 10名 ・指導者 1名	18日(土)雨天中止 11日(土)→25日(土)変更	10
12月	・練習日 9日(土) ・会員数 7名 ・指導者 1名	・練習日 30日(土) ・会員数 10名 ・指導者 1名		17

1月	・練習日 13日(土) ・会員数 8名 ・指導者 1名	・練習日 27日(土) ・会員数 0名 ・指導者 名	27日(土)積雪中止	8
2月	・練習日 17日(土) ・会員数 3名 ・指導者 1名	・練習日 日( ) ・会員数 名 ・指導者 名		3
3月	・練習日 3日(土) ・会員数 6名 ・指導者 1名	・練習日 24日(土) ・会員数 5名 ・指導者 1名		11

会員参加延人数 158名

(表2)

20180324 サイクルスポーツクラブ 記録会

F200m	SS500m	SS1km
19秒443	1分03秒505	
22秒069	1分10秒919	
15秒331	46秒749	
17秒356	53秒276	
16秒199	49秒459	
18秒170	58秒172	
14秒064		1分32秒440
13秒664	42秒902	
19秒111	53秒931	
14秒261	44秒536	
14秒047	44秒598	
13秒829	42秒366	
14秒777		1分29秒251
14秒263		1分32秒040
15秒065	49秒238	
13秒368	43秒019	
15秒077	47秒375	
13秒260		1分24秒200
13秒748	42秒626	
15秒094	45秒726	
12秒413		1分24秒200
12秒731		
14秒352	43秒056	
11秒868		1分15秒663
13秒875		1分23秒241
		1分27秒537
	37秒760	

練習日の模様



子供たちがスラローム走行でバイクコントロールのスキルアップ



指導に関して沼津地区の競輪選手の全面的なサポート



子供から大人までトラック競技が楽しめる





競技志向の会員に対しては本格的なプログラムを提供



ロード練習の様様



ロード練習の様様



トラック練習（伊豆ベロドローム夜間）



トラック練習（伊豆ベロドローム夜間）



20180324 記録会





20180324 記録会



20180324 記録会



20180324 記録会

## (2) 成果

誰でも入会し自転車競技を楽しめるような会費設定を念頭に置き、年間を通して練習に参加できる「年会費」、期の途中からでも入会しやすい「3 か月会員費」、そして入会を迷っている者に対してお試し入会が可能な「スポット料金」の3種類を設けた。その結果、会員数は全体で94名、そのうち本年度から入会した新規会員数は、18名にのぼった。会費を払った者に対しては、会員証を発行し、それを提示することで、練習日以外でも本センターの入場料を免除、施設使用料のみで、北400メートルピストや5キロサーキットを利用しやすいようなシステムにして、会員がいつでも気軽に自転車のトレーニングができるよう環境を整えた。また、通常一般の方々に関しては、1週間前までに予約し、1,550円/半日/人の施設利用料を支払わなければならない伊豆ベロドロームにおけるトレーニングも、会員特典として1,030円/半日/人で利用できるように値段設定をした。その結果、水曜日の定例練習日以外で延35名が、伊豆ベロドロームを利用するに至った。また、指導に関しては、日本体育協会公認の指導者資格を有する本センターの職員及び地元日本競輪選手会静岡支部沼津地区の選手が当たり、年齢やレベルにあった指導を実施することで、より幅広い層の自転車競技者及び愛好者が当クラブの練習を楽しむことができたと思慮される。

上述のとおり、「自転車競技をやってみる」→「走れるようになる」→「練習が本格的にできるようになる」と今度は、その練習の成果を試したくなるのが人間の本性である。ただ練習のみでは、飽きが来てしまうため、参加費に当該クラブ会員割引枠を設け、また老若男女誰でも参加が可能な「垣根の低い」主催記録会及び大会を開催し、その練習の場の提供も実現できた。主な大会は次のとおりである。

- ・ 第1回 2017 Challenge The Izu Velodrome (平成29年6月4日(日))  
全参加者82名中 クラブ会員21名が参加
- ・ 第2回 2017 Challenge The Izu Velodrome (平成29年9月17日(日))  
全参加者60名中 クラブ会員20名が参加
- ・ 全国小中学生室内板張りトラック競技大会  
CSCトラック自転車競技大会2017夏(KID'S~マスターズ)  
(平成29年7月22日(土)23日(日))  
全参加者数135名中 クラブ会員24名が参加
- ・ CSCトラック自転車競技大会2017秋 (平成29年10月22日(日))  
全参加者数136名中 クラブ会員18名が参加



記録会へ出場するクラブ会員 (2017Challenge The Izu Velodrome #1)



大会へ出場するクラブ会員 (CSCトラック大会 2017 夏)

この他にも、トラック競技ばかりでなく、CSC クリテリウムシリーズへは毎回約 10 名程度の会員が参加、夏に行われる CSC5 時間耐久チームサイクルロードレース大会などのロード競技の大会にも多くの会員が参加している。このように、「競技開始」→「練習」→「大会参加」→「競技の継続」という好循環を創出することができたと思慮される。

#### 4. 業界等において今後予想される効果

##### (1) 具体的に記入

前述したとおり、自転車競技は、サッカーや野球などのメジャースポーツと比べると未だ社会的認知度が低いことが否めないことは、連盟の競技登録者数を見ても明らかである。しかし、本センターが

様々なタレント発掘事業などを受け入れる中で、自転車競技をやってみたいというニーズは高いものがある。現状は、彼ら彼女らが、「何を」準備し、「どこに」行って、「誰に」教わったら自転車競技を始めることができるのか、明確ではなく、みすみすそのニーズを逃してしまっている。そこを、なるべく受け入れて取りこぼしのないようにするための一つの方策が、このサイクルスポーツクラブの存在意義であろう。幸いにして、施設及び自転車等の備品並びに競技初心者指導実績を有する本センターが、当該事業を行うことで、その優位性を武器として更なる会員の増加、すなわち自転車競技者層の拡大を図ることができると予想される。いずれのスポーツに関しても、一朝一夕でトップレベルに上がることはできないため、年齢や体力レベルにあった段階的な指導が、最終的には、優秀なアスリートを輩出する基となる。アスリートは、競技ビギナーや若年齢時に体力的にも技術的にも基礎となる土台部分が大きければ大きいほど、将来的にその育成比率、いわゆる「のびしろ」が大きくなる（イメージ図 1 参照）。本センターが手掛ける育成のアスリートパスウェイ（道程）は、以下のとおりである。

- ステップ① 「サイクルスポーツクラブ」で競技を開始し、自転車の楽しみを覚えながら基礎的な自転車の知識や技術を習得する。
- ステップ② 本センター主催の記録会や大会へ出場して、競技大会の参加方法や種目を覚える。
- ステップ③ 本格的な大会へ参加しながら、本センターが運営するUCI（世界自転車競技連合）の選手養成機関であるWCC（ワールド・サイクリング・センター）のアジアンサテライトとしての役割を担うコンチネンタル・サイクリング・センター・修善寺（CCC 修善寺）のトレーニングキャンプに参加して、アジア諸国の同年代の選手とトレーニングを共にして、国際交流しながら本格的な基礎トレーニングの経験を積み、次なるステップへの準備をする。
- ステップ④ ジュニア及びエリートのナショナルチームに所属して、トップレベルの指導を受け、最高のパフォーマンスを発揮し、世界の大会で活躍する。

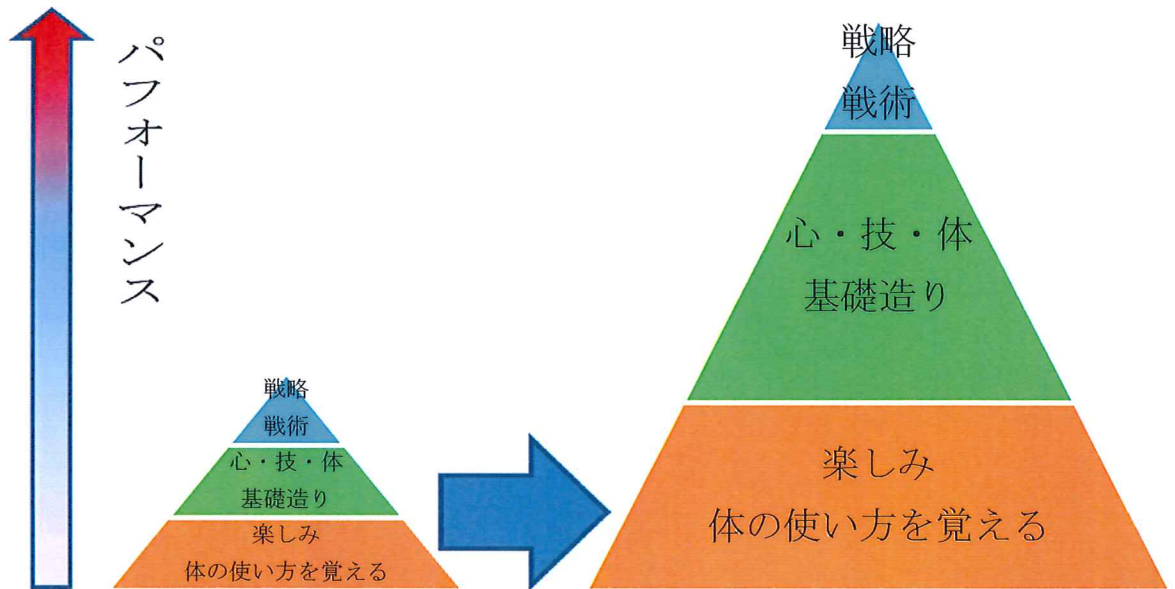
実際に、本年度は、2名のクラブ会員が、CCC 修善寺のトレーニングキャンプに参加している。本センターが担う役割は、上記ステップ①～③であろう。また、トップアスリートを目指さない者、特に壮年以降の健康志向や女性の痩身志向の会員に対しても的確な指



導ができるよう、健康運動指導士の資格を有するスタッフ等による専門的な見地からのアドバイスも織り交ぜていくことで、全ての年齢層やニーズに応えることができるクラブづくりを展開して、自転車競技をよりメジャーなスポーツにすることに資する。

(イメージ図 1) 基礎が大切

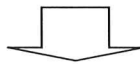
※若い時代の基礎トレーニングが、将来のパフォーマンスアップの「のびしろ」の幅を大きくする



(イメージ図 2) CSC 事業におけるパスウェイ

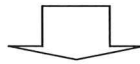
ステップ①

自転車競技との出会い「サイクルスポーツクラブ」



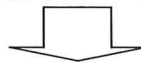
ステップ②

本センター主催大会、記録会への参加



ステップ③

CCC修善寺トレーニングキャンプ参加による本格的な基礎トレーニングの実施  
JCF公認国内大会への参加



ステップ④

ナショナルチーム入りしてハイパフォーマンスなトレーニングの実施



事前計画/自己評価書

1. 自己評価

① 実施計画

(1) クラブ練習会開催

- ・土曜日 3回/月 トラック競技 9:00~12:00
- ・土曜日 2回/月 ロード競技 13:00~15:00
- ・水曜日 1回/月 トラック競技 18:30~21:00

(2) 会員制度

別添サイクルスポーツクラブ要項のとおり

(3) 会員向け記録会の実施

表2の記録参照

(4) 伊豆市スポーツ少年団への加入

② 事業の実施結果

サイクルスポーツクラブの開催回数については、雨天や降雪などの気象状況により中止が数回あったものの、開催場所を調整するなどの工夫により、ほぼ計画通りの回数を実施することができた。会費設定についても、特に高額とのクレームもなく、中学生以下、高校生、一般と3つに分け、子供たちはより経済的負担が少なく参加できるように設定できた。会員向けの記録会は年間2回の計画であったが、年度末の1回の実施にとどまった。自転車競技の社会的認知度向上を図るための目的で伊豆市のスポーツ少年団へ登録をした。スポーツを「支える」立場である審判の登録も同クラブ社会人会員を中心に、各種大会で審判業務に執務した。

③ 事業の成果

総じて、上記事業の成果や業界等において今後予想される効果にも記した通り「自転車競技への第1歩」「競技への入り口」といった事業目的を果たすことができたと思慮される。また会員にクラブの満足度を口頭によるアンケートを実施したところ、ほぼ満足しているとの回答が全体の多くを占めることとなった。

④ 自己評価

「競技施設」「自転車及び関連機材」「初心者や基礎的なトレーニングメソッドの実績」を保有する本センターの特徴を大いに利活用し、目的に近づいたと評価できる。

⑤ 実施計画を踏まえた、事業全体についての意見・所感

事業内容としては、成功であったと自己評価できるものの、成果に関する業界全体への波及効果という点を考慮すると、今後このような事業を日本全国展開できれば、社会的にさらに有益なものとなるであろう。ただし、それには、本センターだけでなく関連団体等との協働を進めていかなければ、全国に波及するまでには至らない。業界全体で協力し合って進めることが理想であると思慮される。

⑥ 優れている点・課題・改善すべき点

本センターは、ハード（施設や備品）、ソフト面（指導、プログラム）を保有している。それらを利用して、このサイクルスポーツクラブ、上述のCCC 修善寺事業、種目適性型（若い選手が自分に適したスポーツを選ぶ）や種目転向型（他スポーツから自転車競技に移行する）などのタレント発掘事業の受け入れ、競技体験プログラム等様々な事業をバラバラに行うのではなく、この点を有機的に一つの線につなぐことで、「自転車競技者層の拡大」という目的を果たすことのできるセンターであると思慮できる。

⑦ 総合評価点

10点満点中8点